

令和六年度 垣生中俳句会 (四月) 入賞作品

金賞

スニーカー桜を連れて帰宅する

二年

家に着いて靴を脱ぐとすると、桜の花びらがはらり。春を感じさせる素敵なお供がいたようです。「スニーカー」と靴の種類を明らかにすることで、作者の人物像を想像させます。「桜を連れて帰宅する」という発想もユーモラスです。



銀賞

母の声春眠の朝ふりそそぐ

一年

春眠暁を覚えず、処々啼鳥を聞く。のどかで暖かい春は寝心地が良く、いつまでも寝ていたいものですね。そんな朝でも、学校がある日は起きなければなりません。遅刻を心配するお母様の声を、作者が集中砲火的に浴びせられる様子が「処々啼鳥」とあまりにも違って笑いを誘います。



銀賞

先輩と並んで歩く春の朝

一年

甘酸っぱい朝ですね。先輩と後輩といった上下関係のある二人が、この朝は並んで歩いている。いつもは少し遠くに感じられる憧れの先輩に、ちよつと近づけているような特別な時間。作者にとって、先輩の横顔はどのように見えるのでしょうか。

銅賞

テスト前桜とテンション落とす雨

三年

テストを控えて憂鬱な作者の気持ちかひしひしと伝わってきます。新学期の華やいだ感覚も桜と一緒に雨に打たれているようです。花が散ってもさらに深緋の桜蕊を降らせ、生命力あふれる若葉を繁らせる桜のように、テスト返却を生き生きと迎えられることを祈っています。

銅賞

妹の疑問が多い登校日

三年

無季の句でしょうか。「登校日」だと夏の句と読む人もいそうです。妹が登校日を迎えているのか／いないのかも気になるところですね。お兄ちゃん・お姉ちゃんと離れたくなくて「なんで？」「どうして？」と繰り返しているのか、登校日が不満でぶーたれているのか。いずれにしても微笑ましいですね。

銅賞

花見して空一面のピンク色

二年

空一面ピンクに染め上げるほど満開とあらば、お花見は大いに盛り上がったことでしょう。桜は入学や卒業といった人生の節目の時期に咲く花です。今までの人生を思い起こさせるような色々のピンクに触発されて、思い出話にも花が咲いたのではないのでしょうか。

くさまさまの事思ひ出すさくらかな 松尾芭蕉

入選

- たんぽぽや風に吹かれて旅に出る 一年
- 入学式前の学校思いだす 一年
- 菜の花をはじめましてと顔を出す 一年
- 散歩行き道端に咲くヒヤシンス 一年
- 夏近し長袖汗ばむ登下校 一年
- 髪ぬれる体力テスト夏近し 二年
- 車中泊巢立つ兄を惜しむ夜 二年
- クラス替え友達探す春の空 二年
- 新入生しわない学ランそで通す 三年
- 来年も笑って見たいな初桜 三年
- 一色の一本道の桜散る 三年
- 一人夜空を見上げて朧月 三年
- 春の朝猫の温もりあついなかな 三年

